

2013年8月

●新潟県神田農場様からのお礼状 (2013年8月29日)

8月24日の霊山プロジェクト視察、ならびに復興庁への提案書検討会に参加された、新潟県神田農場の明道宇弘様からのお礼状が届きました。以下に転記致しますが、私たちの活動への大きな励みになります。ありがとうございました。

先日は福島「霊山プロジェクト」に参加させて頂き、誠に有難う御座いました。初めての参加にも関わらず、現地代表の大沼さんはじめ参加しておられた皆様から大変親切にして頂き誠に有難う御座いました。この度霊山プロジェクトとして復興庁に出された「新しい東北」の提案書には本当に感心しました。この提案書の中の各企画は福島のみならず現在の特に新潟や東北の農業が抱えている問題の解決案でした。私自身は金属の世界で生きてきた者ですが、10年ほど前より新発田市の丘陵地帯にある神田農場の神田氏と出会い、醗酵の力を使い100%の有機肥料や超減農薬にこだわる神田農場を持続可能な農場経営が出来るようにする事が新潟県の農場の新たな方向を作ることに繋がる考え、彼の醗酵の技術と知識や理論に裏打ちされた実践農業技術を生し、彼と一緒にこの度先生が提出されえた提案書の各事業企画(除染以外)と殆ど同じ内容の企画を挑戦して参りましたが、新潟市の市場ではマーケットが小さく、農産物は高いモノは売れなず、東京からは遠い為、送料で採算は合わず、その上、市、県、農政局、農協、全農とも昔の体質からは離れず、新しい構想や企画には非協力体質「農民がそんな事が出来る訳がない、お上の言う通りにしていけば良い」でなかなか具現化しませんでした。

ところがこの度、皆様にお会いし、提案書を見せて頂き、私共が考え挑戦した事と同じ内容で本当にビックリしました。『霊山プロジェクトの提案書は日本の農業の新たな方向と考えています。』私共はこれまで試みて中止したり失敗した経験が、今度は再生可能エネルギー推進協会の皆様の御力をお借りすれば可能かもしれないと考え、勇気が湧いて来ました。

今後霊山プロジェクトの現地代表の大沼様や大波様ともこれをご縁に全面的に協力体制を作り、協力したいと考えて居ります。是非、今後とも格別なご指導を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。取り急ぎお礼まで、

明道宇弘



神田農場の皆様(右から明道宇弘様、渡辺昌芳様、神田一様)



メタン発酵の説明を受ける明道様(右から二人目)と神田様(左端)

●下小国地域再生に向けた復興庁への提案書検討会(2013年8月24日)

霊山プロジェクトは前回の下小国対話会をへて次の新たな躍進に向け活動に踏み切りました。復興庁の「新しい東北」先導モデル事業に、下小国区民会とREPAと協働して「食とエネルギーの循環を活用した戦略的農業ビジネス展開事業」提案書を、提出しました(8月21日)。今回佐藤好孝区民会会長他地元関係者へ内容の詳細説明をおこなうと共にご意見を戴いき、さらに内容の深耕をおこないました。



提案内容の詳細を説明する佐藤代表(左端) 全体討議の様子、復興支援メディア隊が取材

●メタンガス発酵プロジェクト現地作業状況(2013年8月24日)

8月の霊山メタン発酵プロジェクトでは牛糞から得たバイオガス(メタン濃度56%)でガソリンエンジン発電機(ホンダ製、出力450W)を稼働させました。

くずの葉の分析結果もできました。キャベツよりも高カロリーですので、メタン発酵原料としても利用価値は高いです。

現在、くずの葉の発酵試験(毎日、一定量を投入)を行っています。



ガソリンエンジン(手前)とガスタンク(後方3基)

メタンガス発電で灯した照明

バイオガス製造実証装置では、処理量が増えて来てガス発生量の増加が見込める事と、このサイズの処理装置でもガス発電が十分可能であることを示すため、ガスタンクの増設(約3m³×3基)とガスエンジン発電機の対設置をおこないました。今回試運転をおこない、ガス空気の流量調整を行い成功裡の内に終了しました。

●水田除染活動(2013年8月24日)

霊山プロジェクト会議は8月24日(土)霊山で実施されました。今回は新潟県の神田農場の方々3名が参加され、メタン発酵装置、除染水田を案内しました。特に稲の生育状況については有益なる指導、意見を戴きました。さすが米作り新潟の豊富な経験に元づく説得力のある話でした。

稲は水田ブロックごとの多少の差異はありますが、順調に生育しています。10月4日に稲刈りと稲穂、粃の放射能汚染の分析、11月3日の収穫祭を迎えます。



指導を受ける REPA、現地の方々



順調に生育している稲



実るほど頭を垂るる…